

48) 乳房 - その 3

7) 乳癌にかかわる内分泌因子に関する設問

以下の文が正しいか否か記せ

- 問 1 : 乳癌は男性に比べ女性においてほぼ 100 倍も発現頻度が高いこと、子宮内膜癌を有する女性に発現する頻度が上昇すること、乳癌組織には estrogen receptor が存在することなどから、estrogen が優位な環境が乳癌の発生に促進的に作用するものと考えられている。 p4
- 問 2 : 研究のデザインが異なるため必ずしも研究結果に一致がみられているわけではないが、progesterone が優位な内分泌環境下では乳癌のリスクは上昇するという考えが有力である。 p5
- 問 3 : 骨密度の低下している女性に比べ骨密度の高い女性においては、乳癌のリスクは上昇するが、その背景には estrogen の作用が関わっている可能性がある。 p6
- 問 4 : progesterone は乳腺の発育と分化に関わっていることはよく知られているが、乳癌のリスクを上昇させるか否かという点に関しては必ずしも意見の一致をみていない。 p6
- 問 5 : 閉経後の女性に estrogen と progestin を用いたホルモン補充療法を行った場合、乳癌のリスクは僅かながら上昇することから、ホルモン補充療法には乳癌を誘起する作用があるものと考えられている。 p7
- 問 6 : 経口避妊薬を服用している場合、乳癌のリスクが上昇するのではないかと不安に感じているものもいるが、現在までの疫学調査において経口避妊薬の使用者と非使用者間に乳癌の発現頻度に差はないという結果が得られている。 p8
- 問 7 : 乳癌組織に estrogen receptor が認められたものでは、receptor が認められなかったものより乳房摘出後の全生存率と無病生存率は低下する。 p10
- 問 8 : 乳癌患者において術後にアジュバント療法として tamoxifen の投与が試みられているが、再発や転移のリスクの低下が期待できる。 p11
- 問 9 : 乳癌患者において術後に tamoxifen 療法を試みた場合、hot flash や骨密度の低下をみる割合が低下し、子宮内膜癌のリスクの低下も期待できる。 p12
- 問10 : tamoxifen が有する estrogen 作用によって血清蛋白や血中脂質に変化が引き起こされる。 p13
- 問11 : 乳癌のリスク因子を有している女性に、乳癌を予防するために tamoxifen (20mg/日) あるいはプラセボの投与を 5 年間にわたって試みたところ、tamoxifen 投与群においては浸潤癌は 49%、非浸潤癌は 50%減少したと報告されている。 p14
- 問12 : 乳癌は最も発生頻度の高い悪性腫瘍であることから、乳癌のリスクを抑制したいと考える一般女性にとって tamoxifen の予防的投与は妥当な選択肢の一つである。 . . . p15

- 問13 : 乳癌の発現を抑制するために tamoxifen を用いることは有用な方法と考えられているが、5年間にわたって tamoxifen を投与した場合、子宮内膜癌の発現頻度は約4倍に上昇すると報告されている。 p16
- 問14 : tamoxifen を投与する際に、子宮内膜へのネガティブな影響を回避するために黄体ホルモンを服用したほうがよい。 p17
- 問15 : tamoxifen を服用している女性においては約25%に hot flash が発現し、すでに hot flash を有している女性においては状態が悪化することが多い。 p18
- 問16 : 乳癌の治療後に tamoxifen を服用させることによって予後の改善をはかることができるが、tamoxifen の投与中は婦人科検診、超音波診断による子宮内膜のチェック、内膜診などによる慎重な対応が必要である。 p19
- 問17 : estrogen 産生阻害剤である aromatase inhibitor は乳癌の予防に、あるいは乳癌治療後のアジュバント療法として有用な治療法の一つとなる可能性がある。 p20

8) 乳癌関連事項に関する設問

以下の文が正しいか否か記せ

- 問18 : 乳腺に腫瘍が認められた場合、穿刺吸引 (needle aspiration) が広く行われているが、悪性細胞を播種させるリスクもあり、反復して実施してはならない。 p21
- 問19 : マンモグラフィは触知不能な癌の有無を検知するための方法であるが、乳癌細胞が1cmの検知可能な腫瘍に発展するためには約10年を要すると考えられている。 p21
- 問20 : 乳癌による死亡率が低下してきているが、その背景にはマンモグラフィで早期癌が発見されることが多くなり、治療法の選択肢も増えたことが関わっているものと思われる。実際、マンモグラフィによるスクリーニングで乳癌が発見されたものにおいては生存率は高いと報告されている。 p23